

(巻末資料 2) 家庭教育支援に関する取組事例

1 ライフステージにそった循環型支援

①子どもは社会の構成員

| | |
|---|--|
| 事業の名称 | 吉田町商工会「吉田町のプチ旅行」 (事業所による家庭教育支援＝製造業) |
| 事業に関わる人 や組織 | ① 主催＝吉田町商工会 ② 協力会社(会員事業所) 本橋テープ(株) 松本印刷(株) (株)久保田水産 (株)松浦スチロール工業所 |
| 事業の概要 | ① 平成 25 年 8 月 20 日(火)・21 日(水)初めて開催。 ② 地場産業への理解を深めてもらおうと同商工会が企画。 ③ 吉田町内の小中学生と保護者 14 組、34 人が参加。 ④ 2 日間にわたり、上記会社を訪問し、親子で製造工程などを見学。 |
| 事業により得られたもの | |
| ① 地場産業(工場)を親子で見学し、地域の産業への親近感を醸成し、親子の共通体験の機会となった。 ② 夏休みの自由研究のテーマとなった。 | |

| | |
|---|--|
| 事業の名称 | 掛川まちゼミ(得する街のゼミナール) (事業所による家庭教育支援＝商業・サービス業) |
| 事業に関わる人 や組織 | ① 主 催 掛川まちゼミ実行委員会 (事務局＝掛川商工会議所内) ② 後 援 掛川商工会議所 大東町商工会 大須賀町商工会 |
| 事業の概要 | ① 第 3 回目として平成 26 年 2 月 10 日(月)～3 月 9 日(日)の間開催。 ② エントリーした市内 36 店舗で、それぞれ商品・接客講座を開催。 ③ 参加希望の親子は直接、希望のエントリー店に申し込む。 |
| 事業により得られたもの | |
| ① 身近な店舗に出向き、親子でお菓子作り(菓子店)などの共通体験ができた。 ② 地域のお店に対する理解を深めた。 | |

※掲載した事例は、平成 25 年度以前の活動実績をもとに作成しています。

| | |
|--|--|
| 事業の名称 | 磐田市立豊岡東小学校 PTA（敷地教育） |
| 事業に関わる人や組織 | 磐田市立豊岡東小学校 PTA |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域で子どもを育てよう」を合言葉とした「敷地教育」の伝統を受け継ぎ、PTA 活動を進めている。 ・ 平成5年度より PTA 主催で「ホームステイ」（仮親敷地教育）を行っている。 ※希望する家庭が「仮親」になり、地域の子どもが宿泊する。 ・ 生活カード「家庭学習のすすめ」「家庭生活の約束（早寝・早起き・朝ごはん）」を配布し、各家庭で話し合う場を設定した。 |
| 事業により得られたもの <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームステイ、交通指導、奉仕作業、ふれあい運動会、一品即売会等、PTA 役員と小学校の担当職員が連絡を密に取りあう中で運営している。 ・ 「地域で子どもを育てよう」「PTA 活動で地域の架け橋になろう」という機運が地域に醸成されている。 | |

| | |
|---|---|
| 事業の名称 | いわたっ子サポート事業 : 託児サポート♪どれみ♪ |
| 事業に関わる人や組織 | NPO 法人磐田まちづくりネットワーク いわたっ子サポート事業部：代表理事 三輪邦子 ※協力: 託児ひよこ(任意グループ) |
| 事業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> ① 講演会・イベント開催時の託児 若い世代が、市民活動をするときの託児を請け負っている。(有料) ② 磐田市発達支援センター「はあと」の託児 グループ指導教室に参加する対象児親子の下の子ども(弟や妹)を個別に時間内のみ預かる。(有料) ③ 個別託児 家族や母親の都合による緊急の預かり(時間制限なし、有料) 病児保育については相談あり。 ④ 子育て相談等 ⑤ 「だがしや*いろは」の出店 軽トラ市や各種イベントへの参加 |
| 事業により得られたもの <p>子育ての現況→母親の子育て不安、子育ての現況、主催者の「託児」に対する安易な受け入れや対応のあり方</p> <p>だがしや活動では、一般の親子関係や家族関係を垣間見ることができる。また、中学生ボランティアにも手伝ってもらったことにより、彼らの社会的な活動意欲とスキルが向上した。</p> | |

②家庭をつなげる

| | |
|----------------|---|
| 事業の名称 | 三歳児を持つ親の学級（牧之原市） |
| 事業に関わる人 や組織 | 親子体操　　：きのいい羊達　救急講習会；消防署職員 子育て講話　：公民館長 クリスマス会：お話しパレット　ほか |
| 事業の概要 | 三歳児をとりまく家庭環境や三歳児への親等の関わり方は、その子の生涯にわたる人間形成のうえで非常に大切であり、その時期にこそ正しい幼児教育、家庭教育に取り組むことが必要とされている。 子どもの発達の特長や望ましい生活環境などを正しく理解し、お互いの悩みを話し合い、情報交換、知識の取得を図り、健やかで明るい子どもを育てるための学習機会として開設する。 |
| 事業により得られたもの | 子育て講話は、幼児期の心の葛藤や不安などに向き合うために、親としての心構えなどとても役に立つお話だった。参加者から「もっと深く知りたい」という感想もあり、来年度も学習会に取り入れていきたい。 託児の際、ボランティアと母親が子どもの様子について話をする時間が少ないため、毎回の学習会の最後にボランティアとの交流の時間を設けたい。 |

| | |
|----------------|--|
| 事業の名称 | 子育てサークルをつなぎ、子育て情報の発信 |
| 事業に関わる人 や組織 | 子育て支援サークルいわた子育てネットわわわ 代表者：熊岡　孝子　磐田市子育て支援課 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て情報の発信　　子育て情報誌「わわわ」の編集、発行　年1回 ・ 子育てイベント「わっしょいフェスタ」の開催　　年1回 ・ 子育てサークルネットワーク |
| 事業により得られたもの | 磐田市内における子育て情報誌の発行により、安心して子育てができる環境作りは、若い母親たちに喜ばれている。情報誌発行に係る経費の捻出、および関わってくれる若い人たちの減少が課題である。 |

2 成熟した地域社会の構築

①地域の特性を生かす

| | |
|--|--|
| 事業の名称 | 御前崎市新野(にいの)地区 物産販売所 (地域女性グループによる家庭教育支援) |
| 事業に関わる人 や組織 | JA 遠州夢咲女性部グループ(新野地区) (代表=西島一恵さん) |
| 事業の概要 | <p>① 御前崎市(旧浜岡町)新野地区は市の中心部から北に5 km程の場所。地区の商店が次々と閉店し、買い物が不便な場所となった。</p> <p>② 女性部グループは地域の買い物弱者対策として、食品など生活必需品を販売する店舗を開設した。</p> <p>③ 同店舗には学校帰りの小学生なども立ち寄り、グループメンバーが声掛けや会話をしている。また、勉強(宿題)の場にもなっている。</p> |
| 事業により得られたもの <p>① 地域のお年寄り、子供達の買い物の場として機能している。</p> <p>② 子供達に対する声掛けや家族以外の大人と接する場となっており、地域社会が子供を育てる場として機能している。</p> | |

| | |
|--|---|
| 事業の名称 | 世代をつなげた協働による食育から 「優しさとふれあいと支えあいの健康長寿のまちづくり」 |
| 事業に関わる人 や組織 | NPO 法人 こどもの森 代表者:吉田 隆子 磐田市健康増進課 磐田北高等学校 |
| 事業の概要 | <p>行政と食の生産者とともに地域の輪を広げつながることから、市民(幼児期・学童期の子どもと家庭、さらに思春期後期の高校生とその家庭)に向けた支え合いや磐田の健康教育・食育を推進していく。</p> <p>① 「幼児小学生とその家庭さらに高校生との輪を広げるための事業 磐田の畑に出かけよう！」</p> <p>② 「自分の食事を見つめよう」「食事のマナーを体験しよう」</p> <p>③ 「件降雨的な食生活をおくる知識と技の獲得」</p> <p>④ 「伝統的な食文化とその技を実践しよう」</p> <p>⑤ 「伝統的な磐田の食材を使った料理の実習」</p> |
| 事業により得られたもの <p>平成 24 年度磐田市協働のまちづくり提案事業受託 生産者や関連する行政とのネットワークを創ることができた。</p> <p>平成 25 年度磐田市協働のまちづくり提案事業受託 前年度の活動を基盤に地元の高校生と一緒に事業を進めることは、双方にとって成果が大きかった。今後は、高校生の参加人数の増加が課題である。</p> | |

②新たなプラットフォームを生み出す

| | |
|---|--|
| 事業の名称 | 小学生の宿題、放課後生活支援 |
| 事業に関わる人や組織 | 磐田市多文化交流センター・公民館・自治会・大学生 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 月～金曜日 14:00～17:00 ・ 宿題の定着・多くの文化を楽しむ ・ センター（社会のルール）の約束ごとを知り守る |
| 事業により得られたもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題はやらねば成らないものと意識が表れ始めている。 ・ 活動の中で国籍を意識せず仲間意識が強くなっている。 | |

| | |
|---|---|
| 事業の名称 | 学び直し支援 |
| 事業に関わる人や組織 | 磐田市多文化交流センター・市担当課・学校 |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学業途中生（不就学含む）を中学、高校への支援 ・ 各自の目標を優先し見定める。 ・ 目標までの支援 ・ 学校、行政への橋渡し |
| 事業により得られたもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 関った全員が目標到達できた。・本人の自立に向かっていると感じる。 課題：効果ある事業のため広く情報を提供したい。 | |

| | |
|--|--|
| 事業の名称 | 放課後の子どもたち・不登校の子どもたちの居場所作り |
| 事業に関わる人や組織 | NPO 法人アイあい塾（磐田市） 代表者：山本小夜子 地域の人たち・趣味や特技を持った人たち |
| 事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども洋裁教室の開催→「こどもファッションショー」の開催 ・ 「こどもカフェ」の開催 ・ 地域へのボランティア活動（資源回収他お手伝い活動） ・ 畑づくり |
| 事業により得られたもの <p>学年を超えた子どもたちの輪、この居場所を手伝ってくれる大人たちとのコミュニケーションができてきている。</p> <p>様々な分野で手伝ってくれる地域の人材を見つけながら活動を進めている。</p> <p>平成 23～25 年度ふじのくに NPO 活動基金受託</p> | |

(巻末資料3) 家庭教育実態調査結果

(1) 調査方法

静岡県における「これからの家庭教育支援」を考える上で、家庭における教育の実態、親の意識やニーズ等を把握することがまず重要である。そこで、県社会教育課では、平成23年度に小学校3年生の保護者、平成24年度に幼稚園、保育所等に通う4歳児の子どもを持つ保護者、中学校2年生の保護者を対象に調査を行った。

| | | |
|---------------------|---------|---|
| 平成23年度 (小学校の保護者) | (1)調査地域 | 静岡県全域(全35市町から24市町を抽出) |
| | (2)調査対象 | 小学校3年生の保護者 |
| | (3)標本数 | 2,380人(35人×68学級) |
| | (4)回収率 | 配布数 2,380票 有効回収数 2,230票 有効回収率 93.7% |
| | (5)抽出方法 | ア 目標回収数を1,900人前後と設定し、1学級28人(35人の80%)回収として必要な学級数を算出 イ 県全体を7地区に分け、地区内の市町の位置、各市町の小学生の人数分布を考慮して、市町に割振 ウ 調査は1学校1学級とし、バランスを考えて学校を決定 |
| | (6)調査方法 | 家庭の状況、家庭教育への意識や状況、悩みや不安、今後の希望等 選択肢回答(全20問) |
| | (7)調査期間 | 平成23年7月1日～平成23年7月11日 |

| | | |
|---------------------|---------|--|
| 平成24年度 (中学校の保護者) | (1)調査地域 | 静岡県全域(全35市町から25市町を抽出) |
| | (2)調査対象 | 中学校2年生の保護者 |
| | (3)標本数 | 2,345人(35人×67学級) |
| | (4)回収率 | 配布数 2,345票 有効回収数 1,985票 有効回収率 84.6% |
| | (5)抽出方法 | ア 目標回収数を1,900人前後と設定し、1学級28人(35人の80%)回収として必要な学級数を算出 イ 県全体を7地区に分け、地区内の市町の位置、各市町の小(中)学生の人数分布を考慮して、市町に割振 ウ 調査は1学校1学級とし、バランスを考えて学校を決定 |
| | (6)調査方法 | 家庭の状況、家庭教育への意識や状況、悩みや不安、今後の希望等 選択肢回答(全19問) |
| | (7)調査期間 | 平成24年7月11日～平成24年7月27日 |

| | | |
|--|---------|---|
| 平成 24 年度 (幼 児 の 保 護 者) | (1)調査地域 | 静岡県全域（全35市町から27市町を抽出） |
| | (2)調査対象 | 幼稚園、保育所等に通う4歳児の保護者 |
| | (3)標本数 | 2,600人（幼稚園、保育所各20人×65学級） |
| | (4)回収率 | 配布数 2,624票 有効回収数 2,310票 有効回収率 88.0% |
| | (5)抽出方法 | ア 目標回収数を2,000人前後と設定し、幼稚園、保育所にそれぞれ1,300人ずつを割振 イ 県全体を7地区に分け、地区内の市町の位置、各市町の4歳児の人数分布を考慮して、市町に割振 ウ 調査対象園は、バランスを考えて市町にて決定 |
| | (6)調査方法 | 家庭の状況、家庭教育への意識や状況、悩みや不安、今後の希望等 選択肢方式17問、自由記述1問、全18問 |
| | (7)調査期間 | 平成25年2月4日～平成25年2月15日 |

(2) 調査の集計結果

- ※ 網掛けは数値に約10%の差がある項目。
- ※ 「無回答」については、わずかな割合のため項目を省いてある。
- ※ 幼については、幼児のデータである。

1 回答者（日ごろ子どもの家庭教育を行っている保護者）について

《問1》子どもとの続柄について

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|---|-------|-------|-------|
| 母 | 96.3% | 93.7% | 91.6% |
| 父 | 3.3% | 5.7% | 7.6% |

《問2》家族（同居）の構成について

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-------------------|--------------|--------------|--------------|
| ひとり親（母子、父子）家族 | 4.9% | 6.1% | 8.5% |
| 2世代家族（核家族） | 63.4% | 60.4% | 52.1% |
| 3世代以上家族 | 31.5% | 33.1% | 38.1% |

《問3》祖父母の居住状況について（自宅からどのくらいの距離に住んでいるか）

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|---------------|-------|-----|-----|
| 同じ家屋内 | 29.1% | | |
| 同じ敷地内の別家屋 | 8.1% | | |
| 車で15分以内の範囲 | 34.6% | | |
| 車で15～30分以内の範囲 | 10.5% | | |
| 車で30分以上 | 16.1% | | |
| 祖父母はいない | 1.0% | | |

《問4》子どもの就園状況について

（幼保園、こども園の場合は実態に近い型を選択）

※小学生、中学生は幼児期に通っていた方を回答。

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 幼稚園（幼稚園型） | 54.5% | 67.4% | 66.6% |
| 保育園（保育園型） | 45.5% | 32.2% | 32.1% |

《問5》地域とのつながりについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----------------|-------|-----|-----|
| 強い方だと思う | 5.3% | | |
| どちらかといえば強い方だと思う | 35.4% | | |
| どちらかといえば弱い方だと思う | 39.6% | | |
| 弱い方だと思う | 19.3% | | |

《問6》回答者の就業状況について

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|----------|-------|-------|-------|
| 仕事をしている | 63.8% | 72.3% | 85.6% |
| 仕事をしていない | 35.5% | 27.0% | 14.1% |

2 家庭教育（しつけ等）の状況について

《問7》家庭教育（しつけ等）で特に力を入れていることについて（複数回答）上位5つ

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|------------------|-------|-------|-------|
| あいさつや返事、言葉づかい | 69.7% | 66.9% | 59.1% |
| 約束やルールを守る | 51.4% | 58.5% | 54.0% |
| 相手を思いやる気持ち | 48.0% | 56.2% | 54.5% |
| 善悪の判断 | 30.8% | 31.9% | 40.6% |
| 早寝早起き、食事基本的な生活習慣 | 30.8% | 25.2% | 18.9% |

幼 《問11》子どもに身につけていると感じるもの、身につけていないと感じるもの

| | 身につけている | 身につけていない |
|-------------------|---------|----------|
| 自分のことを自分ですることができる | 40.2% | 16.8% |
| 集中して遊んだり、学んだりできる | 25.4% | 12.2% |
| 自分の気持ちや考えを人に伝えられる | 15.6% | 37.2% |
| 集団の中でマナーを守って生活できる | 16.8% | 10.6% |

《問8》自分の子どもへの家庭教育（しつけ）の状況をどう思うかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| 必要なことは、きちんと教育できている | 2.9% | 4.1% | 6.5% |
| 足りない部分もあるが、教育できていることが多い | 51.8% | 52.9% | 56.4% |
| 教育できていることもあるが、足りないことが多い | 43.5% | 40.9% | 35.1% |
| ほとんどのことが、きちんと教育できていない | 1.3% | 1.3% | 1.3% |

幼 《クロス1》問8〈家庭教育についての自己評価〉×問5〈地域とのつながり〉

| | 強い群 | 弱い群 |
|-------------------------|-------|-------|
| 必要なことは、きちんと教育できている | 3.8% | 2.3% |
| 足りない部分もあるが、教育できていることが多い | 60.5% | 45.9% |
| 教育できていることもあるが、足りないことが多い | 34.7% | 49.4% |
| ほとんどのことが、きちんと教育できていない | 0.2% | 2.1% |

3 ほめること、しかることについて

《問9》子どもをほめることはあるかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|----------|-------|-------|-------|
| よくほめる | 44.4% | 24.6% | 15.1% |
| 時々ほめる | 52.9% | 69.0% | 73.6% |
| あまりほめない | 2.0% | 5.2% | 9.7% |
| ほとんどほめない | 0.2% | 0.4% | 1.1% |

ほめる群

《問9-1》ほめることについてどのような思いを持っているかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|----------------------------------|-------|-----|-----|
| 子どもが伸びると思うので、ほめることは大切だと思う | 53.3% | | |
| 子どもの良いところに気づいたときはほめたい | 43.8% | | |
| ほめているが、子どもが素直に受け止めているか不安を感じる時もある | 1.5% | | |
| その他 | 1.2% | | |

《問10》子どもをしかることはあるかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----------|-------|-------|-------|
| よくしかる | 53.2% | 55.0% | 33.4% |
| 時々しかる | 43.9% | 42.3% | 58.5% |
| あまりしからない | 1.9% | 1.6% | 6.3% |
| ほとんどしからない | 0.3% | 0.4% | 1.1% |

しかる群

《問10-1》しかることについてどのような思いを持っているかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|--------------------------------|-------|-----|-----|
| 必要なときはしかるが、感情的になり、説得力に欠けることがある | 40.7% | | |
| 子どもが気づき成長すると思うので、しかることは大切だと思う | 30.0% | | |
| 子どもの悪いところに気づいたときはしかりたい | 27.9% | | |
| その他 | 1.2% | | |

4 子育ての悩みや不安について

《問12》子育ての中で、悩んだり、不安になったりすることがあるかについて

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|--------|-------|-------|-------|
| よくある | 24.5% | 22.9% | 22.8% |
| 時々ある | 49.3% | 56.1% | 50.2% |
| あまりない | 20.8% | 17.2% | 22.0% |
| ほとんどない | 4.5% | 3.5% | 3.9% |

ある群

幼 《クロス2》問12〈悩みや不安の内容〉×問2〈家族の構成〉 (複数回答)

| | ひとり親 | 2世代 | 3世代 |
|--------------------------|-------|-------|-------|
| 忙しく、余裕を持って子どもに接することができない | 74.4% | 52.2% | 49.9% |
| 自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない | 52.2% | 49.0% | 49.5% |
| しつけの方法、タイミングがわからない | 27.8% | 25.0% | 29.3% |
| 自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる | 11.1% | 10.1% | 12.8% |
| 子育てについて、他の家族と意見が合わない | 6.7% | 5.6% | 11.7% |

幼 《クロス3》問12〈悩みや不安の内容〉×問4〈子どもの就園状況〉 (複数回答)

| | 幼稚園 | 保育園 |
|--------------------------|-------|-------|
| 忙しく、余裕を持って子どもに接することができない | 39.0% | 68.0% |
| 自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない | 54.1% | 43.8% |
| しつけの方法、タイミングがわからない | 26.6% | 26.3% |
| 自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる | 12.4% | 9.3% |
| 子育てについて、他の家族と意見が合わない | 7.1% | 8.1% |

5 子育ての悩みについての支援者について

《問 13》子育てについて、身内で支援してくれる人について（複数回答）

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|--------------|-------|-------|-------|
| 配偶者 | 69.5% | 73.9% | 66.7% |
| 別居の祖父母 | 55.5% | 47.7% | 35.1% |
| 自分や配偶者の兄弟 | 26.9% | | |
| 同居の祖父母 | 17.1% | 27.0% | 24.3% |
| 兄弟の中で、年長の子ども | 4.8% | 21.3% | 18.5% |

《問 14》子育てについて、家族以外で話を聞いてもらえる人について

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----|-------|-------|-------|
| いる | 94.8% | 91.7% | 90.0% |
| いない | 4.8% | 8.1% | 9.6% |

いる群
↓

《問 14-1》その人はどのような人かについて（複数回答）上位5つ

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----------------------|-------|-------|-------|
| 同じ年の子どもを持つ保護者仲間 | 78.3% | 85.9% | 83.0% |
| 異学年（上の学年）の子どもを持つ保護者仲間 | 39.5% | 45.7% | 47.1% |
| 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方 | 8.5% | 12.4% | 14.2% |
| 幼稚園・保育園（小学校・中学校）の先生 | 40.7% | 12.0% | 6.4% |
| 勤め先の人や自分の友達 | 62.1% | | |

幼 《クロス 4》 問 14-1 〈その人はどのような人〉 × 問 2 〈家族の構成〉（複数回答）
上位5つ

| | ひとり親 | 2世代 | 3世代 |
|-----------------------|-------|-------|-------|
| 同じ年の子どもを持つ保護者仲間 | 63.5% | 79.5% | 78.2% |
| 異学年（上の学年）の子どもを持つ保護者仲間 | 28.8% | 39.5% | 41.2% |
| 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方 | 9.6% | 8.5% | 8.4% |
| 幼稚園・保育園（小学校・中学校）の先生 | 37.5% | 41.0% | 40.8% |
| 勤め先の人や自分の友達 | 81.7% | 58.9% | 65.7% |

幼 《クロス5》問14-1 〈その人はどのような人〉 × 問4 〈子どもの就園状況〉
 (複数回答 上位5つ)

| | 幼稚園 | 保育園 |
|-----------------------|-------|-------|
| 同じ年の子どもを持つ保護者仲間 | 88.3% | 66.3% |
| 異学年(上の学年)の子どもを持つ保護者仲間 | 44.7% | 33.2% |
| 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方 | 9.7% | 7.0% |
| 幼稚園・保育園(小学校・中学校)の先生 | 38.0% | 44.1% |
| 勤め先の人や自分の友達 | 46.6% | 80.6% |

《問15》今後、子育てについて家族以外で、話を聞いてもらいたい人について
 (複数回答)

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|
| 同じ年の子どもを持つ保護者仲間 | 71.3% | 82.1% | 78.4% |
| 異学年(上の学年)の子どもを持つ保護者仲間 | 48.8% | 66.7% | 61.9% |
| 家庭教育(しつけ等)や子どもの発達に関する専門的知識を持っている人 | 1.8% | 35.0% | 32.2% |
| 近所に住む、子育ての終わった経験豊富な方 | 17.8% | 32.8% | 35.5% |
| 幼稚園・保育園(小学校・中学校)の先生 | 61.3% | 42.6% | 31.4% |
| インターネット上の仲間 | 31.7% | 3.5% | 2.8% |
| 勤め先の人や自分の友達 | 35.4% | | |

6 今後、参加したいこと、子育ての助言や学習で希望することについて

《問 16》 今後、参加したり、行ったりしたいものについて（複数回答）上位5つ

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|-------------------------------|-------|-------|-------|
| 気持ちを理解して、話を聞いてもらうこと | 54.5% | 54.9% | 57.2% |
| 地域の中での、親同士の仲間づくりや情報交換 | 59.3% | 46.5% | 39.7% |
| 不安や悩みの相談 | 43.8% | 45.9% | 47.0% |
| 仲間で運営する子育てサロン、子育てサークルなど | 23.2% | 11.3% | 7.5% |
| 家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレット等からの情報収集 | 23.2% | 28.6% | 26.7% |

《問 17》 アドバイスを受けたり、学習したりしたい内容について（複数回答）

| | 幼児 | 小学生 | 中学生 |
|----------------------------|-------|-------|-------|
| 子どものほめ方やしかり方 | 64.0% | 66.7% | 48.9% |
| 子育ての基本となる親の考え方・心の持ち方 | 51.3% | 56.1% | 50.7% |
| 善悪の判断、マナーについてのしつけ方 | 44.8% | 50.8% | 38.6% |
| 子どもとの関わり方 | 37.2% | | 38.5% |
| 食事についてのしつけ方 | 25.5% | 19.0% | 11.3% |
| 子どもの健康や発達に関する基礎知識 | 33.9% | 35.9% | 24.6% |
| 生活習慣についてのしつけ方（早寝、早起きなども含む） | 20.5% | 21.7% | 21.6% |

(巻末資料4) 家庭教育関連主要事業 (平成22年度～25年度)

《平成22年度実績》

1 「親学」推進事業 (H20～H22)

家庭環境や社会環境の変化に伴い、家庭の教育力低下が指摘されている中、「親はどうあるべきか」「親に求められることは何か」などについて、「全ての親」が参加する機会(公立小学校の就学時健康診断)に学びの場を提供する。

(1) 親学講座の実施

①実施校： 小学校518校

②講師： 226名(子育てサポーターリーダー、人づくり推進員、学校評議員、退職教員等)「親学ノート」を活用

(2) 親学講師運営会議の実施

①対象： 「親学」講師全員(参加者167名)

②日時・場所： 8月3日(火)浜北市：49人 6日(金)静岡市：76人
9日(月)沼津市：42人

(3) 3歳児保護者対象の親学講座の試験的实施

①概要 幼児期用教材を作成し、幼稚園・保育園各1園で試験的に講座を実施。

(4) 事業終了後の対応

事業はH22にて終了。H23以降は、各市町に委譲。

2 お父さんの子育て手帳活用推進事業 (H16～H22)

子どもの健やかな成長を目的に、父親の家庭教育参加を促進することを主なねらいに、「お父さんの子育て手帳」を作成し、子どもを持つ親に配布して、子育て日記としての活用を促進するとともに、地域子育て支援センターや保育所、学校、PTAなどによる説明・研修会等の教材としての活用を図る。

(1) 手帳の作成・配布 85,000部

①新規該当者 35,000部 母子健康手帳交付時

②平成23年度就学児童の親 37,500部 親学講座時

③県・市町教育委員会等 12,500部

(2) 手帳活用促進のための出前説明会

①実施数： 21箇所(幼稚園10、保育園5、小学校2、子育て支援センター等4)

②講師： 社会教育課指導主事 14箇所、子育てサポーターリーダー 7箇所

(3) 事業終了後の対応

事業はH22にて終了。H23以降は、「お父さんの子育て手帳」をホームページからダウンロードできるようにしている。

3 「子育て応援キャラバン」事業（H21～H22）

就学前の子どもを持つ親を中心に、子どものしつけや基本的な生活習慣の身につけ方等、子育てに関する情報提供を親子でふれあう機会をつくりながら、直接的に伝えていくために、県内数ヶ所でイベントを実施する。それにあたって企業の持つ広報媒体や企業の行う子育てイベントへの参加により、より多くの集客を得る。

(1) 活動内容（静岡新聞社・静岡放送へ委託）

主に幼児期の子どもを持つ保護者を対象に、県内各地を巡回して、親子参加型の子育て講座（特に父親の子育て参加を啓発）や「お父さんの子育て手帳」等の紹介・活用の促進

(2) 実施の様子

- | | | | |
|-------|-------------|----------------------|---------------|
| ① 7月 | 袋井市エコパアリーナ | あそび子育て研究会 | 16,350人(来場者数) |
| ② 10月 | 静岡市ツインメッセ | ピュアスポーツクラブ | 20,200人(来場者数) |
| ③ 11月 | 藤枝市蓮華寺池ホール | 安永聡太郎(元Jリーガー) | 150人 |
| ④ 1月 | 磐田市豊岡総合体育館 | 村田 亙(7人制ラグビー-日本代表監督) | 47人 |
| ⑤ 1月 | 静岡市蒲原東小学校 | 齊藤俊秀(藤枝MYFC監督) | 76人 |
| ⑥ 1月 | 富士宮市安藤記念ホール | おのりん先生(きのいい羊たち) | 121人 |

4 「静岡県家庭の日」推進事業

家庭の日をきっかけとして、親子のふれあいやコミュニケーションを深め、家族がもう一度家庭のあり方を見つめなおす機会の提供を推進する。

(1) ポスターの作成・配布 3,000部

保育所、幼稚園、小・中学校、特別支援学校、家庭の日協賛施設、公民館等へ配布

(2) モバイルサイト、ホームページへの掲載

優待制度協賛施設については、県モバイルサイトと県ホームページに掲載。

優待制度利用に必要な「パスポート」は、ポスターのQRコード、県モバイルサイトと県ホームページからはダウンロードできるようにした。

(3) 事業終了後の対応

事業はH22にて終了。H23以降は、家庭の日のチラシをホームページからダウンロードできるようにしている。「家庭の日」の周知、広報は継続して行っている。

《平成23年度実績》

1 「家庭教育サポート調査研究」事業

親や親を取り巻く環境の実態調査を行い、調査結果をもとに、親の実態に応じた継続的な家庭教育支援について、委員会で検討する。

(1) 家庭教育実態調査

- ①調査地域：静岡県全域（全35市町から24市町を抽出）
- ②調査対象：小学校3年生の保護者2,380人（回収数2,230人）
- ③調査方法：選択肢方式、全20問
- ④調査時期：平成23年7月

(2) 「みんなで支える家庭教育」リーフレット作成

- ①リーフレット作成 15,000部
家庭教育実態調査の調査結果の分析を行い、概要と県からの提言を掲載
- ②リーフレットの配布
配布先：各市町教育委員会、児童福祉課、各市町小学校、小学校PTA、幼稚園、保育園、子育て支援拠点、

(3) 家庭教育支援検討委員会

- ①委員数：10名
- ②実施回数：7回（ワーキング部会2回）
- ③検討内容：平成24年度以降の家庭教育支援の方向性と方策の検討
家庭教育実態調査の調査結果の分析

《平成24年度実績》

1 「地域における家庭教育支援検討」事業

多くの親が持つ悩みや不安の深刻化を防ぐため、親同士や身近な地域の力を活用した家庭教育支援を促進するとともに、より効果的な支援の内容・手法についての検討を行う。

(1) 家庭教育支援検討委員会

- ①委員数：6名
- ②実施回数：3回

- ③検討内容：モデルPTA（三島市立三島東小、藤枝市立青島東小）の活動支援（助言、講演会講師等）
平成25年度以降の家庭教育支援の方向性と方策の検討

(2) 家庭教育実態調査

- ①調査地域：静岡県全域（全35市町から25市町を抽出）
②調査対象：中学校2年生の保護者2,345人（回収数1,985人）
③調査方法：選択肢方式、全19問
④調査時期：平成24年7月

(3) 幼児期における家庭教育実態調査

- ①調査地域：静岡県全域（全35市町から27市町を抽出）
②調査対象：幼稚園・保育園等に通う4歳児の保護者2,624人（回収数2,310人）
③調査方法：選択肢方式 全17問、自由記述1問、計18問
④調査時期：平成25年2月

(4) 「みんなで支える家庭教育」リーフレット作成

- ①リーフレット作成 14,000部
家庭教育実態調査の調査結果の分析を行い、概要と県からの提言を掲載
②リーフレットの配布
配布先：各市町教育委員会、児童福祉課、各市町小・中学校、小・中学校PTA、幼稚園、保育園、特別支援学校

(5) 「親がつどい・つながり・学ぶ」PTA活動事例集リーフレット作成

- ①リーフレット作成 15,000部
小学校、中学校のPTA活動で取り組まれている「親が集い、つながり、学ぶ」活動を掲載
②リーフレットの配布
配布先：各市町教育委員会、児童福祉課、各市町小・中学校、小・中学校PTA、幼稚園、保育園、特別支援学校

《平成25年度実績》

1 「みんなで支える家庭教育推進」事業

（学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業）

親と親がつながり、悩みや不安を相談したり、子育ての仲間をつくったりする環境を整えることで、親が持つ悩みや不安を軽減し、地域みんなで家庭教育を支援する機運を高める。また、親が交流する場で活用するワークシートの作成とその効果的な活用方法を検討することで、親同士のつな

がりや学びを支援する。

(1)家庭教育支援推進部会

- ①部員数：7名
- ②実施回数：11回（内ワーキング部会9回）
- ③検討内容：幼児期版、児童期版、思春期版の家庭教育ワークシートの作成
ワークシートの活用方法の検討

(2)ワークシート広報用リーフレット作成

- ①リーフレット作成
ワークシートの特徴、活用方法について掲載
幼児期版リーフレット（6,200部）
児童期版リーフレット（3,300部）
思春期版リーフレット（2,100部）
- ②リーフレットの配布
配布先：幼稚園、保育所、小学校、中学校、PTA、保護者会、市町教育委員会、市町保育所主管課等

（巻末資料5）平成25年度スクールソーシャルワーカー活用事業

1 目的

教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技能を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図る。

2 活用事業の実績

(1)事業概要

- ア スクールソーシャルワーカーの配置
配置市町4市1町（御殿場市・三島市・焼津市・吉田町・袋井市）
委嘱者 社会福祉士、精神保健福祉士等 10人
- イ スクールソーシャルワーカー運営協議会を年6回開催する。
講演、講義、協議、配置市別個別相談等を行う。

(2)スクールソーシャルワーカーの職務

- ア 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け
- イ 関係機関とのネットワークの構築、連携・調整

- ウ 学校内におけるチーム体制の構築、支援
- エ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- オ 教職員を対象とした研修活動

3 平成26年度の活用事業

(1) スクールソーシャルワーカーの配置

配置市町 4市1町（御殿場市・三島市・焼津市・吉田町・袋井市）

※静東、静西各教育事務所に派遣型スクールソーシャルワーカー各
1人工配置

委嘱者 社会福祉士、精神保健福祉士等 13人

4 成果

<学校>

- ・ 子どもを取り巻く環境を踏まえた対応ができるために、一步踏み込んだ指導ができるようになった。
- ・ 教職員自身の情報収集力が向上し、学校としての問題への対応力が付いた。
- ・ 一つの事案を様々な角度から包括的に見立て、解決に向けた方向付けができるようになった。

<市町教育委員会>

- ・ 配置した全ての市町でSSWの役割や必要性について理解が深まり、各市町の実態に合わせた配置や派遣を行うことができるようになった。

5 課題

<学校>

- ・ 困難事案を抱えている学校は、SSWの派遣によって問題がすぐに解決することを期待するが、状況の改善には時間を有することが多い。SSWの対応は、福祉的なかわりを継続することが基本であることなど、SSWの役割や活動について理解を求めていく必要がある。

<市町教育委員会>

- ・ 各市町で予算折衝に取り組んだが財政が厳しく、それ以上に緊急度が高い状況が多々あるため新規事業の立ち上げは大変難しい。

資料 活動状況

| 平成25年度（平成25年4月から平成26年3月まで） | |
|--------------------------------|---|
| 1 SSWの配置人数 | 10人 |
| 2 支援対象となった児童生徒 | 956人 |
| 3 支援した問題と支援状況の上位 | ①家庭環境の問題 236件（27%） ②不登校 159件（18%） ③発達障害等に関する問題 147件（17%） ④教職員等との関係の問題 57件（7%） ⑤友人関係の問題（いじめを除く）56件（7%） |
| 4 ケース会議の開催状況 (1) 教職員とのケース会議 | 開催回数 167回 扱ったケース件数 212件 参加職員数 645人 |
| (2) 関係機関等とのケース会議 | 開催回数 105回 扱ったケース件数 139件 参加職員数 571件 参加関係機関の人数 337人 |
| 5 連携した関係機関等 | 児童・家庭・福祉の関係機関 115件 教育支援センター等の学校外の教育機関 50件 保健・医療の関係機関 48件 |
| 6 訪問活動の回数 | 学校 411回 家庭 36回 教育支援センター（適応指導教室）56回 教育委員会 66回 関係機関 68回 |

第 33 期静岡県社会教育委員

(任期：平成 24 年 8 月 1 日～平成 26 年 7 月 31 日)

(敬称略)

| | 氏 名 | 現 職 | 備 考 |
|----|-------------------|-------------------------------|---------------|
| 1 | あおき 青木まゆみ | 県スクール・ソーシャルワーカー（袋井市） | |
| 2 | あべ こうや 阿部 耕也 | 静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授 | 委員長 WG 委員 |
| 3 | いさり だとしこ 漁田 俊子 | 静岡県立大学短期大学部教授 | |
| 4 | かわい ようこ 河合 洋子 | 前浜松市立積志小学校長 | |
| 5 | きのうちあつこ 木ノ内 惇子 | 磐田市多文化交流センター「こんにちは！」 センター長 | |
| 6 | さくらいち えこ 桜井智恵子 | 大阪大谷大学教育学部教授 | |
| 7 | さわにしかずよし 澤西 一良 | 静岡県 P T A 連絡協議会会長 | |
| 8 | しが ひるひと 志賀 裕人 | ボーイスカウト静岡県連盟副コミッショナー | |
| 9 | すぎたあきひこ 杉田 暁彦 | 長泉町立長泉中学校長 | |
| 10 | にはしけいこ 二橋 桂子 | N P O 法人子育て支援の会代表 | |
| 11 | まつなが ゆみこ 松永由弥子 | 静岡産業大学情報学部准教授 | 副委員長 WG 委員 |
| 12 | みやした おさむ 宮下 修 | (株)静岡新聞社編集委員 | WG 委員 |
| 13 | みわくにこ 三輪 邦子 | 磐田市社会教育委員長 | |
| 14 | やまもとまさき 山本 正己 | イトウシャディ(株)社長室長 | |

WG はワーキンググループ

第 33 期静岡県社会教育委員会審議経過の概要

| 開催会 | 開催期日 | 審議内容 |
|--------|-------------|--|
| 第 1 回 | H24. 9. 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長、副委員長選出、委員自己紹介 ・ 審議題の決定 |
| 第 2 回 | H24. 11. 27 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国（家庭教育支援の推進に関する検討委員会）報告書 ・ 社会教育課の家庭教育支援事業の変遷について |
| 第 3 回 | H25. 1. 29 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育をめぐる課題について（問題提起）（資料 2） ・ 家庭教育に関連した調査結果について ・ 親学講座など社会教育課の家庭教育支援事業について ・ 県の人づくりの取組について |
| 第 4 回 | H25. 3. 13 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県の子育て支援事業について ・ 連携の取組について ・ ワークライフバランスの取組について ・ 平成 25 年度社会教育団体の事業概要と補助金について |
| 第 5 回 | H25. 5. 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の家庭教育支援のための取組の整理 ・ 中間報告に向けた議論の整理 |
| 第 6 回 | H25. 7. 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告に向けた議論の整理（中間報告案の作成） ・ 取組の方向性について |
| 第 7 回 | H25. 9. 19 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告の完成 → 10 月 28 日の教育委員会へ報告（意見交換） |
| 第 8 回 | H25. 11. 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体策の方向性について |
| 第 9 回 | H26. 1. 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書原案の検討 |
| 第 10 回 | H26. 3. 13 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書原案の検討 ・ 平成 26 年度社会教育団体の事業概要と補助金について |
| 第 11 回 | H26. 5. 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書原案の検討 |
| 第 12 回 | H26. 7. 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書（最終案）の検討 → 7 月 25 日の教育委員会へ報告 |

ワーキンググループでの検討内容

| 開催会 | 開催期日 | 審議内容 |
|-------|------------|--|
| 第 1 回 | H25. 3. 22 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題整理案の作成 ・ 県及び県教委の家庭教育支援のための取組の整理 |
| 第 2 回 | H25. 8. 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告案の作成 |
| 第 3 回 | H26. 2. 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書原案の検討 |
| 第 4 回 | H26. 4. 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書原案の検討 |
| 第 5 回 | H26. 6. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 期報告書（最終案）の検討 |

報 告 日 平成 26 年 7 月 25 日
発 行 静岡県教育委員会社会教育課（事務局）
〒420-8601
静岡市葵区追手町 9-6
静岡県教育委員会社会教育課
電 話 054-221-3160
FAX 054-221-3362
Web ページ

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-08/>